

11月28日(金) 19:00~20:30

時間	内容	会場
19:00~20:30	理事会・常任理事会	熱帯医学研究所

第1日目 11月29日(土) 13:00~20:30 (役員会は10:30~)

時間	内容	会場
10:30~12:00	理事会・評議員会	教育学部 24 番教室
12:00~	大会受付開始	教育学部 1F 入口
13:00~13:30	ポスター発表コアタイム	21~22 番教室前
<p>一般講演ポスター発表 (展示は2日目の15時まで) ○:発表者、※:優秀講演発表賞対象者</p> <p>P-1 ○板倉修司・辻 美帆・山口大輔・田中裕美 (近畿大学農学部) シロアリに対する RNA 干渉</p> <p>P-2 初宿成彦 (大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫)</p> <p>都市部において生物多様性が減少した時期 ~大阪市の甲虫相変遷を例に~</p> <p>P-3 ○木村悟朗¹・副島鮎子²・川上 泰²・谷川 力¹ (1イカリ消毒(株) 技術研究所, 2麻布大学 生命・環境科学部)</p> <p>低温暴露がチャパネゴキブリの致死に及ぼす影響 (予報)</p> <p>P-4 ※清水 遼 (長崎大学水産・環境総合科学研究科) 砂質干潟の底生生物が脱窒菌に与える影響</p> <p>P-5 ※野一色麻人 (滋賀県立大・院・環境科学研究科) 侵略的外来水草オオバナミズキンバイを利用する植食性昆虫相</p> <p>P-6 ○中西康介・夏原由博 (名大・院・環境) 環境保全型農法と慣行農法の水田におけるカエル類の繁殖状況の比較</p> <p>P-7 ○※東原 諒・高倉耕一 (滋賀県立大学 環境科学) シカの土地利用頻度とダニ個体数密度の関係</p> <p>P-8 ○※尾崎良介・江藤 毅・堤 亮太・坂本信介・越本知大・森田哲夫 (宮崎大学農学部)</p> <p>アカネズミ消化管形態の季節性</p> <p>P-9 ○吉田宗弘 (関西大学)・吉田 周 (京都精華大学) 桂川河川敷のチョウ類群集, 1997年と2014年の比較</p> <p>P-10 ○大村和香子・原田真樹・神原広平 (森林総研) 非接触式 AE 検出装置によるイエシロアリ害害検出</p> <p>P-11 岩中 愛¹・松原祥恵¹・福田昌子¹・Thipruethai Phanitchat²・Raweewan Srisawat²・Lucky R. Runtuwene¹・野口香緒里¹・Arthur E. Mongan³・鈴木 稔⁴・Narumon Komalamisra²・成田弘成⁵・森田公一⁶・倉根一郎⁷・高崎智彦⁷・林田 京子⁸・杉本千尋⁹・小林隆志¹・○江下優樹¹ (1大分大、2Mahidol Univ.、3Sam Ratulangi Univ.、4東京大、5桜花学園大、6長大熱研、7感染研、8帯広畜産大、9北海道大)</p> <p>RT-LAMP 法の改良によるアルボウイルス症診断の検討</p>		
13:30~16:00	<p>一般講演 ○:発表者、※:優秀講演発表賞対象者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします</p>	
	A 会場 (21 番教室)	B 会場 (22 番教室)
13:30	A-1 ○※日高直哉・藤井暢之 (滋賀県立大学)・Sujiono (BBPOPT)・高倉耕一・沢田裕一 (滋賀県立大学)	B-1 ○※元山堯之・大原直通・広渡俊哉・紙谷聡志 (九大院・農・昆虫)
	インドネシア・ジャワ島におけるミカンコミバエ種群、 <i>B. carambolae</i> と <i>B. papayae</i> の季節消長および寄主利用	英彦山におけるベイトトラップを用いた甲虫類調査
13:45	A-2 ○※奥田彩子・斉藤 茂・庄野美徳 (住友化学(株))	B-2 ○※屋宜禎央・広渡俊哉・紙谷聡志・大原直通 (九大院・農・昆虫)
	Olyset®Net および Olyset®Plus のトコジラミに対する効力	英彦山におけるライトトラップボックス法を用いた蛾類調査
14:00	A-3 ○※寺口さやか・引土知幸・川尻由美・菅本和志・中山幸治 (大日本除虫菊(株)中央研究所)	B-3 ○※渡邊綺咲・清水伸泰 (京都学園大学バイオ環境研究科)
	チョウバエ用殺虫剤 スプレータイプの検討	アワダチソウグンバイ若虫特有の集合行動に関わる化学因子の探索
14:15	A-4 ○※渡辺祐基・築瀬佳之・藤井義久 (京都大学大学院農学研究科)	B-4 江田慧子 ¹ ・野瀬菜摘 ² ・矢崎曜一 ² ・○中村寛志 ²
	顕微鏡観察と AE モニタリングによるチビタケナガシクイの摂食活動の解析	(1:信州大学山岳科学研究所、2:信州大学農学部 AFC)
14:30	A-5 ○※原田悠耶・引土知幸・田中 修・中山幸治 (大日本除虫菊(株) 中央研究所)	B-5 ○※江田慧子 ¹ ・野瀬菜摘 ² ・矢崎曜一 ²
	ムカゲ用防除剤の開発	・井角恒太 ² ・中村寛志 ²
		(1:信州大学山岳科学研究所、2:信州大学農学部 AFC)
14:45	A-6 ○※安台梨乃・松本 繁・鈴木優八 (アース製薬(株)研究開発本部)	B-6 ○※吉村忠浩・竹内 剛・石井 実 (大阪府大院・昆虫)
	新規ムカゲ用毒餌剤の開発	大阪府北部におけるギフチョウの生息環境の現状と個体群の保全

第1日目 11月29日(土) 一般講演つき ○:発表者、※:優秀講演発表賞対象者 座長は前の講演者をお願いします		
	A会場(21番教室)	B会場(22番教室)
15:00	A-7 ○※長田庸平(九大院・生資・昆虫)・宮本泰行(亀岡食品販売)・坂井 誠(共生科学)・吉松慎一(農環研)・黄 国華(湖南農業大学)・広渡俊哉(九大院・農・昆虫) 貯穀害虫コクガ(チョウ目ヒロズコガ科)とその近縁種~各種の識別法~	B-7 ○※斎藤裕介・平井規央・石井 実(大阪府大院・昆虫) 南大阪の都市公園における樹液に集まる昆虫群集の多様性
15:15	A-8 ○※古川真莉子 ¹ ・高倉耕一 ¹ ・本間 淳 ¹ ・中西康介 ² ・松山和世 ¹ ・日高直哉 ¹ ・沢田裕一 ¹ ・西田隆義 ¹ (1 滋賀県大・環境, 2 名大・環境) ヒロヘリアオイラガとイラガの繭期の捕食圧の比較 一みためとかたさ、どちらが重要か?一	B-8 ○※鈴木真裕・平賀耕介・山田竜平・秋田耕佑・平井規央・石井 実(大阪府大院・昆虫) 都市域に造られたビオトープ池における水生動物群集-4年間の変化-
15:30	A-9 ○※S. Khoirul Himmi・Tsuyoshi Yoshimura (RISH, Kyoto University), Yoshiyuki Yanase (Graduate School of Agriculture, Kyoto University), Masao Oya (Oya Shiroari Giken), Toshiyuki Torigoe (Nara National Museum), Setsuo Imazu (Kyushu National Museum) Nest-gallery development of <i>Incisitermes minor</i> : an insight of colony fusion in the early stage of new colony-founding	B-9 ○※与世田信忠・谷田一三・平井規央・石井 実(大阪府大院) 紀ノ川水系の上流域における紀伊半島大水害後の底生動物群集の遷移
15:45	A-10 ○※Titik Kartika, Tsuyoshi Yoshimura (RISH, Kyoto University), Nobuhiro Shimizu (Kyoto Gakuen University) The importance of purified ester as an attractive compound to a powder post beetle, <i>Lyctus africanus</i> Lesne (Coleoptera, Lyctinae)	B-10 ○※坂田啓三・山本 直・平井規央・石井 実(大阪府大院・昆虫) 淀川水系支流の中流域における夏季のユスリカ幼虫相
16:00~17:45 総会(21番教室) 学会賞 受賞講演 奨励賞 受賞講演 優秀講演発表賞 表彰		
19:00~20:30 懇親会 ホテルセントヒル長崎(長崎県長崎市筑後町4-10)		

第2日目 11月30日(日) 9:30~17:00

9:30~12:00 一般講演 ○:発表者 座長は最初を除いて前の講演者をお願いします		
	A会場(21番教室)	B会場(22番教室)
9:30	A-11 ○川田 均・比嘉由紀子・二見恭子・皆川昇(長崎大学 熱帯医学研究所) RAPD-PCRによるネッタイシマカ subspecies 同定の試み	B-11 ○高倉耕一(滋賀県大・環境科学)・来田村輔・塚田森生(名大・生資)・藤井暢之・本間 淳・西田隆義・沢田裕一(滋賀県大・環境科学) インドネシア・ジャワ島における <i>Bactrocera</i> 属ミバエの主要害虫2種の LAMP 法による判別法
9:45	A-12 ○大橋和典 ¹ ・John Lucas ² ・John Invest ² ・手嶋勇人 ¹ ・庄野美徳 ¹ (1 住友化学(株), 2 Sumitomo Chemical UK) 抵抗性対策蚊帳 Olyset® Duo のハマダラカに対する不妊化および寿命短縮効果	B-12 ○広渡俊哉(九大院・農・昆虫)・山口典之(長崎大・環境科学)・那須義次(大阪府病害虫防除所)・長田庸平(九大院・生資・昆虫)・村濱史郎・松室裕之(日本バードレスキュー協会)・上田恵介(立教大・理) 佐賀市北部のカササギの巣から発生した昆虫類(予報)
10:00	A-13 ○角田 隆(長大・熱研)・Vu Trong Duoc (NIHE, Vietnam)・Tran Vu Phong (NIHE, Vietnam)・皆川 昇(長大・熱研) ベトナム国ハノイ市における Dengue 熱媒介蚊対策について	B-13 ○上田紘司・芦澤 淳・藤本泰文・嶋田哲郎(伊豆沼財団) 伊豆沼・内沼周辺のトンボ相とその季節変化
10:15	A-14 平林公男(信州大学学術研究院繊維学系) Dengue 熱媒介蚊ヒトスジシマカ <i>Aedes albopictus</i> の吸血飛来時間帯	B-14 ○松本和馬(森林総合研究所)・Woro A. Noerdjito (The Research Center for Biology, LIPI, Indonesia) ロンボク島における海岸荒廃地の再植林によるチョウ類群集の種多様性向上と問題点

第2日目 11月30日(日) 一般講演つづき		○: 発表者	座長は前の講演者をお願いします
A会場(21番教室)		B会場(22番教室)	
10:30	A-15 ○築瀬佳之(京都大学大学院農学研究科)・森 拓郎(京大生生存圏研究所)・鈴木 遥(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) ジョグジャカルタにおける伝統的ジョグロ建築物の生物劣化調査	B-15 ○西中康明(大阪府日本万国博覧会記念公園 自然観察学習館)・有賀憲介(吹田野鳥の会) 万博記念公園のチョウ相の構造解析 - 2009~2013年の調査結果より -	
10:45	A-16 ○吉村 剛・小野和子・Khoirul Himmi Setiawan(京大生生存研)・本田与一・築瀬佳之・渡辺祐基(京大院農)・竹松葉子・中野由布妃(山口大農)・土居修一((元)筑波大院生命環境科学) Kok-Boon Neoh(日本学術振興会・京大生生存研) アカシア・ハイブリッド5~11年生林におけるシロアリの多様性評価	B-16 ○大庭伸也(長崎大学教育学部生物学教室)・津田良夫(国立感染症研究所) 東北地方津波被災跡地の湿地および水溜りから発生する水生昆虫類	
11:00~11:15 休憩			
11:15	A-17 ○横田 景・中嶋智子・片山哲郎・分銅絵美・関 誠一・越智広志・山田一成(京都府保健環境研究所) 京都市伏見区におけるアルゼンチンアリ地域一斉防除の現状について	B-17 ○石山良範・佐藤 浩・山田道夫(榊大成イーアンドエル) 昆虫の誘引は物体の色に関係するか? - 新しい防虫方法の可能性について -	
11:30	A-18 ○中嶋智子・関 誠一・片山哲郎・横田 景・分銅絵美・越智広志(京都府保健環境研究所) ビストリフルロンとホウ酸を含有するアリ用ベイト剤の在来アリ類への影響について	B-18 ○辻 英明(環境生物研究会)・菅野格朗・片山淳一郎(環境機器㈱) タバコシバンムシとノシメマダラメイガの家屋侵入経路の類似性	
11:45	A-19 ○内海與三郎・亀井正治(アース・バイオケミカル㈱) ヒドラメチルノン含有ベイト剤を摂食したチャバネゴキブリの嘔吐物の分析	B-19 ○木村悟朗 ¹ ・宮ノ下明大 ² ・谷川 力 ¹ (1イカリ消毒㈱ 技術研究所, 2農研機構 食品総合研究所) 実験動物用飼料におけるコクヌストモドキとヒラタコクヌストモドキの発育	
12:00~13:00 昼食			
13:00~17:00 市民公開シンポジウム(教養教育棟A-21番教室) 一般講演・ポスター発表会場とは建物が異なりますので、ご注意ください。			
<p>市民公開シンポジウム</p> <p style="text-align: center;">「長崎県の自然環境とヒト」</p> <p style="text-align: right;">座長: 高木 正洋(長崎大学名誉教授)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 長崎県の自然環境に生息する蚊やダニが媒介するウイルス病 長崎大学熱帯医学研究所教授 森田 公一 2) ながさきの島にはどんな甲虫が住んでいるのか E-アシスト 今坂 正一 3) 多良岳にすむ、森の妖精「ヤマネ」 長崎県生物学会 松尾 公則 4) 長崎県の植物地理 長崎大学名誉教授 中西 弘樹 5) シカによって危機的にまで減少したチョウ、 ツシマウラボシシジミの現状と保全活動 日本チョウ類保全協会 中村 康弘 			